

## 気持は急いでいる

寝ながら、ふと感じた。  
 英語がペラペラ喋れるなんて、本当に、  
 そんなに、カッコいいもんなんだろうか。  
 僕の声は、高い目で、細くて貧弱に感じる。

声が太くて、顔がちりして、  
 筋肉質で、背が高く、顔も鼻筋通って、  
 目が鋭く、かつ、きれいな、りりしい男性の方が、  
 ずっといいのは、当然だろう。

僕の声は、鼻声に近く、英語の発音にはいいかも。  
 しがし、本当は、映画で見ると、  
 カッコいい西部のカウボーイが持つ太い声は、  
 もう東洋人という体格からして、多分、僕にはだめだろう。

上等のステレオのスピーカーには、絶対、箱が大切。  
 僕の肺や体では、どっしりした箱の役目は無理だ。

僕の声は、かん高い鼻声で、  
 オームかカナリアの様な気がする。  
 映画の本場のアメリカ人男性の声には  
 少なくとも、今は、ほど遠い。

僕も、大人になれば、声も、もっと年を取り、  
 太く、どっしりしたものになるだろうか。

どうも弱腰になってしまふ。  
 悪い方ばかり見ている僕である。  
 いずれにせよ、英会話の通信添削はやめようと思う。  
 そう思いなら、うとうととしていた。